



腎機能に応じた投与戦略 重篤な副作用の防ぎかた

向山 政志, 平田 純生 監修
中山 裕史, 竹内 裕紀, 門脇 大介 編

B5 版 頁400 2016 年
本体 5,800 円+税
[ISBN978-4-260-02864-6] 医学書院刊

評者 大野 能之 東大附属病院薬剤部

10 年以上前に、本書の監修および執筆者の平田純生先生の講演を初めて聴く機会があり、「これが本当の薬剤師だ」と衝撃を受けた記憶があります。それからは、腎機能低下時の薬の使い方については、平田先生の本で勉強して、理解を深めていきました。脂溶性の高い薬物はなぜそのまま尿中に排泄されないのかを理解できたのも平田先生の本のおかげでした(本書の2章-2でも解説されています)。今では一緒にお仕事をさせてもらえる機会もあり、本書の書評の執筆の機会をいただけたことは感慨深いです。

薬物を投与する際にはその主な消失経路となる肝臓と腎臓の機能を評価することが“かんじん”です。高齢化社会や、腎疾患を有する患者の増加に伴い、まさに本書のタイトルのとおり「腎機能に応じた投与戦略」を立てることが必要不可欠となっています。本書は重篤な副作用を回避するために、医師、薬剤師が知っておきたいキーワード、考え方、計算式などを、症例を挙げながら具体的に解説しています。

第1章では、防げるはずだった中毒性副作用がなぜ起こったのか、そしてどのような対策をすれば有害反応を未然に防止できるのかについて、中毒性副作用の具体的な症例を提示した後に、論理的に解説しています。また、第2章では副作用を起こさないために、腎機能に応じた投与設計、患者の腎機能の適切な評価方法、薬剤の腎排泄寄与率の評価などについて、ピットフォールも含めてわかりやすく解説されています。さらに、第3章では診療科別に腎機能に留意して投与し

なければならない代表的な薬物について、まず「ポイント」を示し、その内容について詳細に解説しています。その領域の医師であればよく知っている薬剤であっても、腎機能低下時の留意点についてここまで具体的に解説したものはないと思います。また、薬剤師であれば、たとえ専門領域の医師に対してでも、ぜひこういった点でのフォローと情報支援をしてほしいと思う内容です。第4章は腎機能を適切に評価するための「10の鉄則」について簡便にまとめてあり、初心者はまずはここから読み始めて勉強することも有用でしょう。そして、第5章は腎機能別の薬物至適用量を網羅した一覧表であり、実臨床の場で資料としても活用できます。

平田先生はこれまでも腎臓病患者の薬物適正使用に関する書籍を多数執筆されており、評者もそれらの書籍でたくさん勉強させていただきましたが、本書はさらに痒いところにも手の届く集大成版と言っても過言ではありません。新たに勉強させていただいた点も多数ありました。本書全般にある「コラム」や「気になるキーワード」もとてもよいタイミングで、本文を補足してくれています。

この一冊で腎機能に応じた投与戦略の基本から実践まで学ぶことができます。本書を通してさらに多くの医師と薬剤師が腎機能の評価と腎機能低下時の薬物療法の理解を深め、よりよい薬物治療を実践していくことを願います。